

2・3種リーグ改革プロジェクト ～世界トップ10を目指して～

骨子

目的

リーグ戦導入に関する具体的な取り組みを開始してから約3年が経過した今、「10年後に世界のトップ10」という大目標に再度立ち返り、その達成に向けて「プレーヤーズ・ファースト」という視点に立った、「レベルに応じた(レベルの拮抗した)」「長期間を通じて行われる定期的な(M-T-Mメソッドに基づいた)」2・3種年代のリーグ戦を整備し、リーグ戦文化の定着を目指す。

背景・現状

JFAでは、2・3種年代におけるリーグ戦導入/リーグ化に関する取り組みについて、重点取り組み事項であるキャプテンズ・ミッションの1つに「M8.リーグ戦の推進と競技会の整備充実」として位置づけ、地域/都道府県協会との協働体制のもと、補助金・予算の重点投資も併せ、2003年度から取り組んできた。

そして下記の具体的な成果を含め、「負けると終わってしまうトーナメント方式」でないリーグ戦が多くの都道府県で増加し、リーグ戦導入に関する取り組みは、都道府県協会をはじめとした関係者の努力により、着実に成果をあげてきた。

- ・「都道府県における2・3種年代リーグの積極展開」(2003年～)
- ・各地域でのJFAプリンスリーグ実施(2003年～)
- ・高円宮杯(U-15)・ナイキプレミアカップ予選のリーグ化&補助金(2003年～)
- ・高円宮杯(U-18)のリーグ戦導入(2003年～)
- ・高円宮杯(U-15)のリーグ戦導入(2003年～)

上記の実績からも、「プレー/公式戦の機会増加」という点では、各都道府県/地域での取り組みは着実に成果をあげたと評価できる。また「リーグ戦に対する意識」の共有・浸透は、都道府県/地域/JFAの各所において必要なレベルにほぼ達していると言える。

一方で、リーグ戦の本来の重要な要素である「レベルに応じた(レベルの拮抗した)」「長期間を通じて行われる定期的な(M-T-Mメソッドに基づいた)」という観点では、「理想的な形のリーグが全国的に確立された」と言う段階には至っていない。各都道府県の実態・関係者からの意見からも、補助金支給等を契機に既存大会の一部にリーグ形式を導入しただけで満足している大会、実力差の大きい対戦、あるいは非常に短期間で行われる大会も見受けられ、プレーヤーズ・ファーストという観点では改善の余地の大きいリーグも少なくない。

また、都道府県・地域における各年代のリーグ戦が同一時期に開催されておらず、機会の均等化が計れていないリーグも多い。

さらに、リーグ形式導入に積極的に取り組んだものの、試合機会の増加を重視するあまり、試合/競技会の過多・過密日程等の弊害が新たに生じ、指導者・選手・運営スタッフ等の負担増加・過密感等が、各都道府県での次の段階の課題として生まれてきた。

具体的取り組み事項

高円宮杯(U-18)・(U-15)を頂点とする、「レベルに応じた(レベルの拮抗した)」・「長期間を通じて行われる定期的な(M-T-M メソッドに基づいた)」2・3種年代のリーグ戦のあるべき姿を検討し、都道府県/地域において実行する。

上記と連動し、JFA から都道府県/地域協会に支援している関連補助金の見直しを行う。

取り組みにおいて重視する6つのポイント

Players First ! (何が選手にとって有効か)

「強化」・「普及」の両立

選手育成・競技会運営等、様々な要素の考慮

“今まで以上の”2種・3種の相互協力・連携(各都道府県/地域内)

固定概念に囚われない(思い切った試み)

各都道府県/地域の実績・好事例の活用

体制

選手育成・競技会運営等、様々な要素からの検討

技術委員会・技術部、事業部・2/3種大会部会、CHQ の合同プロジェクト

JFA・地域/都道府県協会だけに留まらず、関連団体の視点も重視

より多くの合意形成・好事例把握のための、都道府県等の参画



関係者による、横断的な体制づくり

基本スケジュール(予定)

2006年度

～5月 体制/メンバー決定

6～9月 内容検討

第1回プロジェクトMTG:6月6日(火)18:00～ 於JFAハウス 済
第2回プロジェクトMTG:7月21日(金)17:00～ 於JFAハウス
第3回以降は未定

～10月 内容発表(都道府県FA)

2007年度 } 都道府県/地域での実行(試行期間)

2008年度 }

2009年度 完全実施

以上